

保育実習事後指導：

保育実習事後指導について 1. 保育実習指導Ⅰ（保育所）と保育実習指導Ⅱ、2. 保育実習指導Ⅰ（施設）と保育実習指導Ⅲに分けて報告する。

保育実習指導Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅱについては、各授業方法の実施有無については同じ項目で質問しているが、保育実習指導Ⅰ（施設）及び保育実習指導Ⅲについては別々に質問した。そのため、保育実習指導Ⅰ（保育所）と保育実習指導Ⅱの各授業方法の実施割合を求めた結果は 1 つであるが、保育実習指導Ⅰ（施設）と保育実習指導Ⅲの各授業方法の実施割合を求めた結果は 2 つである。

1. 保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱについて

(1) 保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱの間隔はどのくらいか（図 1-1）

保育実習ⅠとⅡの間隔については、期間を開けて実施している（94%）とする回答の割合が高かった。開けている期間の長さが数日の場合、学生にとっては連続するよう感じられるであろうとする回答もみられた。保育実習Ⅰと保育実習Ⅱを連続して実施している養成校は少数（6%）であった。

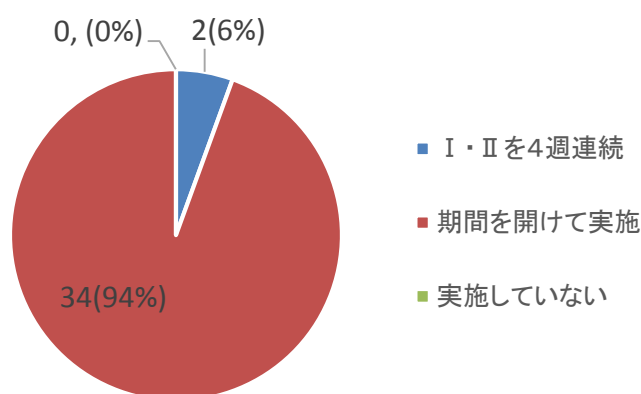


図1-1 保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱの間隔

(2) 保育実習事後指導における各授業方法の実施割合

保育実習指導Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅱは 36 校全てで実施されていた。保育実習指導Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅱにおいて 5 割を超えた授業方法は、講義型指導（66.7%）、イベント型実習報告会（77.8%）、記録介在型指導（86.1%）、グループワーク型指導（50.0%）、個別面談型指導（88.9%）であった。

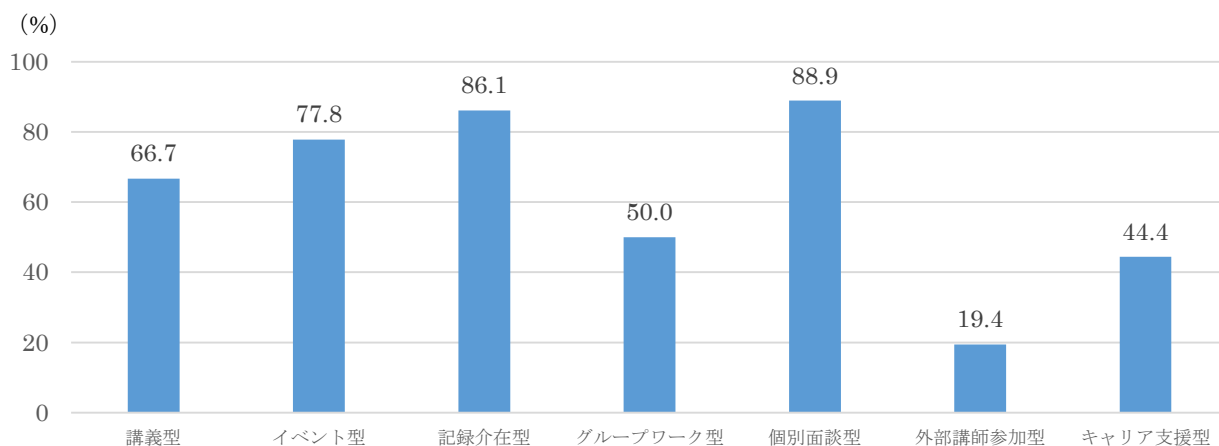


図1-2 各指導方法の実施割合

表 1-1 保育実習指導 I（保育所）・IIにおいて各授業方法を実施している養成校数と割合

	講義型指導	イベント型	記録介在型	グループワーク型	個別面談型	外部講師参加型	キャリア支援型
養成校数	24	28	31	18	32	7	16
(%)	66.7	77.8	86.1	50.0	88.9	19.4	44.4

(3) 各授業方法の実施時期

各授業方法を実施している養成校について、実施時期を「1週間未満」、「1週間以上1か月未満（以下、1か月未満）」、「1～3か月」、「4～6か月」に分類して集計した。

(3) -1 保育実習指導 Iにおける各授業方法の実施時期

それぞれの授業方法を実施している養成校数をもとに、各実施時期の割合を算出した（図 1-3-1）。講義型指導では、1か月未満（37.5%）が、次いで、1～3か月（29.2%）の割合が高かった。イベント型実習報告会では、1～3か月（39.3%）が、次に4～6か月（14.3%）の割合が高かった。記録介在型指導では、1か月未満（51.6%）、1週間未満（22.6%）の順に割合が高かった。グループワーク型指導では、1～3か月（33.3%）が、次いで、1か月未満（27.8%）の割合が高かった。個別面談型指導では、1～3か月（40.6%）が、次に、1か月未満（34.4%）の割合が高かった。外部講師参加型指導では、1～3か月（28.6%）が、4～6か月（14.3%）の割合が高かった。キャリア支援型指導では、4～6か月（25.0%）、1～3か月（12.5%）の順に割合が高かった。

講義型指導、個別面談型指導は、4～6か月の時期に実施されていなかった。また、外部講師参加型指導、キャリア支援型指導においては、実習終了後1週間未満、1か月未満の時期に実施されていなかった。それぞれの内容により、適切な時期が選択されたり、準備に必要な期間が取られたりした結果だと推測される。

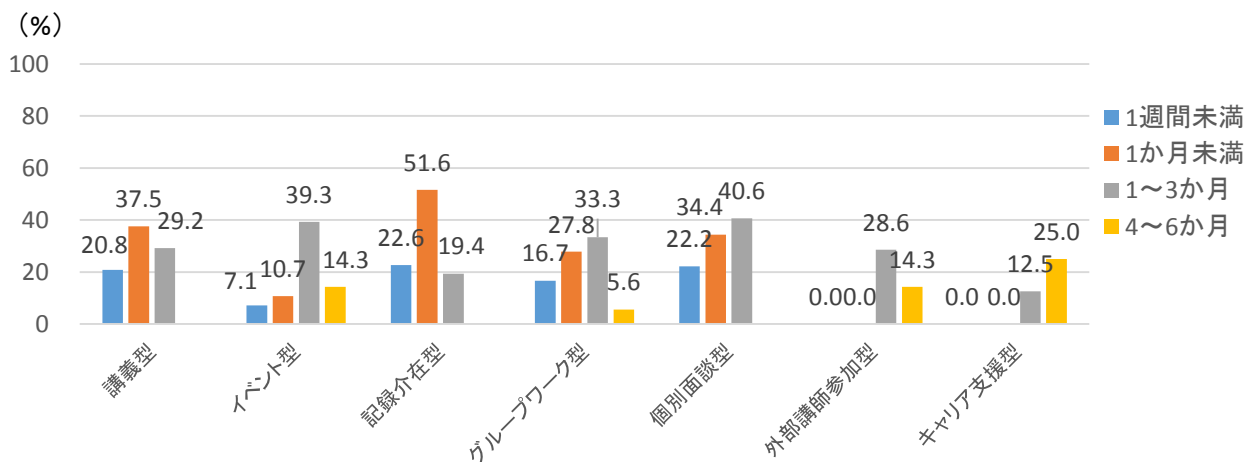


図1-3-1 実習 I (保育所)事後指導における各授業方法の実施時期

(3) -2 保育実習指導Ⅱにおける各授業方法の実施時期

それぞれの授業方法を実施している養成校数をもとに、各実施時期の割合を算出した(図 1-3-2)。講義型指導では、僅かな差ではあるが、1か月未満(29.2%)が、次いで、1週間未満と1〜3か月(25.0%)の割合が高かった。イベント型実習報告会では、1〜3か月(42.9%)が、次に4〜6か月(21.4%)の割合が高かった。記録介在型指導では、1か月未満(41.9%)が、次いで、1週間未満(29.0%)の割合が高かった。グループワーク型指導では、1〜3か月(33.3%)、1か月未満(27.8%)の順に割合が高かった。個別面談型指導では、1〜3か月(40.6%)が、次いで、1か月未満(37.5%)の割合が高かった。外部講師参加型指導では、1〜3か月(42.9%)が、次に、4〜6か月(28.6%)の割合が高かった。キャリア支援型指導では、1〜3か月(31.3%)、4〜6か月(25.0%)の順に割合が高かった。

講義型指導、グループワーク型では4〜6か月の実施が見られなかった。外部講師参加型では1〜3か月、4〜6か月の実施のみ見られた。実習時期との兼ね合いもあるだろうが、講義やグループワークを行って、保育実習の総まとめをおこなうような授業の組み立てであるのかもしれない。

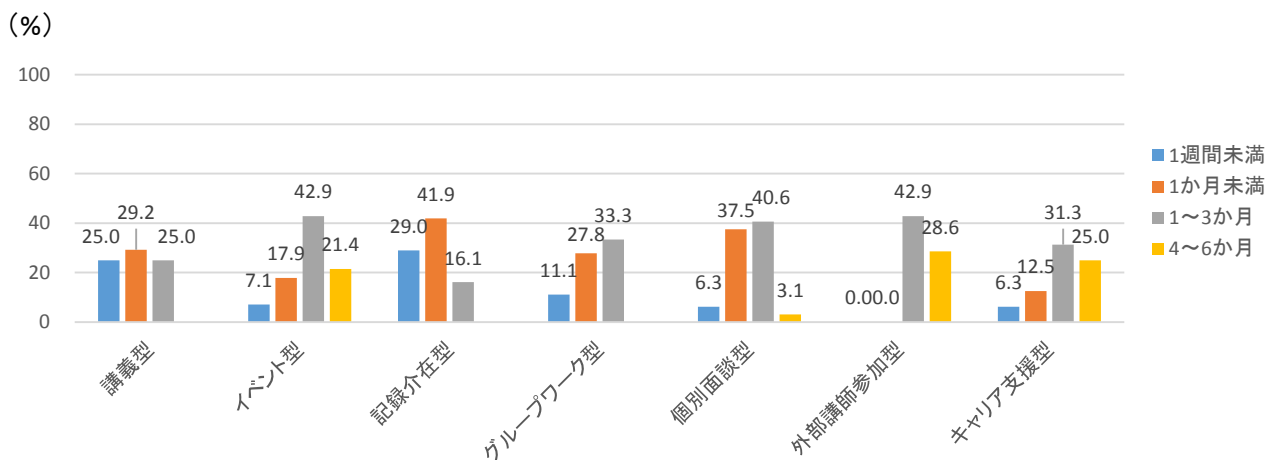


図1-3-2 保育実習Ⅱ事後指導における各授業方法の実施時期

(4) 各授業方法の実施内容と実施回数

各授業方法を実施している養成校について、各授業方法における実施内容を分類して集計した。

(4) -1 講義型指導の実施回数と実施内容

講義型指導を実施していたのは、24校(66.7%)であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回(41.7%)、2回(29.2%)、3回(8.3%)の順に多く、保育実習指導Ⅱでは1回(50.0%)、2回(25.0%)、3回(8.3%)の順に多かった。

講義型指導を実施している養成校について、その内容である「まとめ(総括)」、「全体評価」、「講義内での簡易報告会」、「その他」の割合を算出した(図1-4-1)。「まとめ(総括)」の実施割合が、保育実習指導Ⅰ(70.8%)および保育実習指導Ⅱ(75.0%)と高かった。「全体評価」の実施割合は、保育実習Ⅰ・Ⅱともに5割、「簡易報告会」の実施割合は保育実習Ⅰ・Ⅱともに3割程度であった。

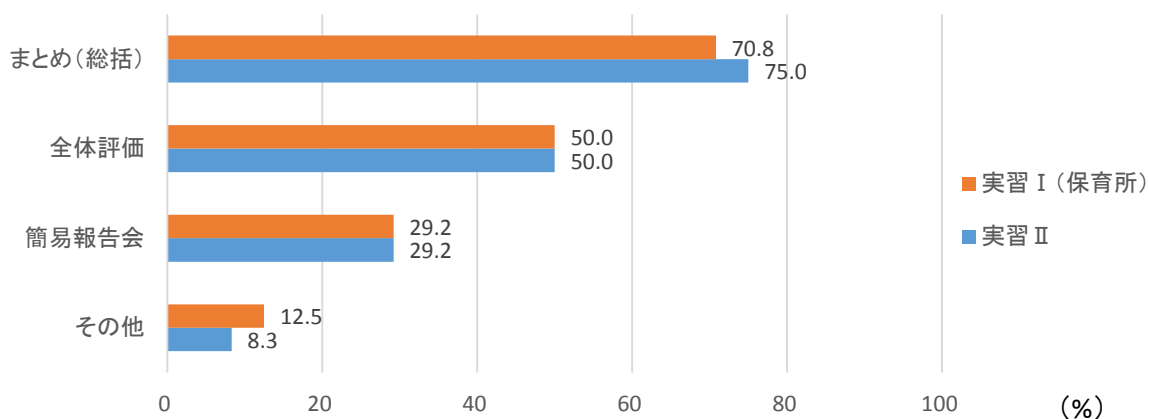


図1-4-1 講義型指導の各内容実施割合

(4) -2 イベント型実習報告会の実施回数と実施内容(割合)

イベント型実習報告会を実施していたのは、26校(72.2%)であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回(35.7%)、2回(21.4%)、3回と4回(それぞれ7.1%)の順に多く、保育実習指導Ⅱでは1回(42.9%)、2回(35.7%)、4回・8回・10回(それぞれ3.6%)の順に多かった。

イベント型実習報告会を実施している養成校数をもとに、①その講義への参加者【単独学年、異学年混合、施設種別、外部参加者、その他】である場合、②発表媒体【ポスター発表、スライド発表、レジュメ発表、その他】である場合、③発表者が【個人発表、グループ発表、全員発表、代表者発表、その他】である場合について、それぞれ算出した(図1-4-2)。①参加者の選択肢の中では、単独学年で実施されることは保育実習指導Ⅰ・Ⅱともに3割弱(28.6%)であり、異年齢混合で実施されることは保育実習指導Ⅰ(46.4%)より保育実習指導Ⅱ(75.0%)の方が多く、施設種別ごとに行われることは保育実習指導Ⅰ(14.3%)と保育実習指導Ⅱ(75.0%)より多く、外部参加者を招くことは保育実習指導Ⅰ(14.3%)のより保育実習指導Ⅱ(17.9%)より多かった。②発表の媒体の選択肢の中では、ポスター掲示がおこなわれることが保育実習指導Ⅰ(3.6%)より保育実習指導Ⅱ(14.3%)の方が多く、また、スライド提示によ

りおこなわれることが保育実習指導Ⅰ（17.9%）より保育実習指導Ⅱ（21.4%）の方が多く、レジュメを用いることはどちらの実習指導においても約4割（保育実習指導Ⅰ39.3%、保育実習指導Ⅱ42.9%）であった。③発表者の選択肢の中では、個人発表は保育実習指導Ⅰ（28.6%）・保育実習指導Ⅱ（25.0%）ともに3割弱であるが、グループ発表は保育実習指導Ⅰ（3.6%）よりも保育実習指導Ⅱ（25.0%）の方が、全員が発表することも保育実習指導Ⅰ（10.7%）より保育実習指導Ⅱ（21.4%）の方が、代表者による発表も保育実習指導Ⅰ（42.9%）よりも保育実習指導Ⅱ（53.6%）の方が多かった。

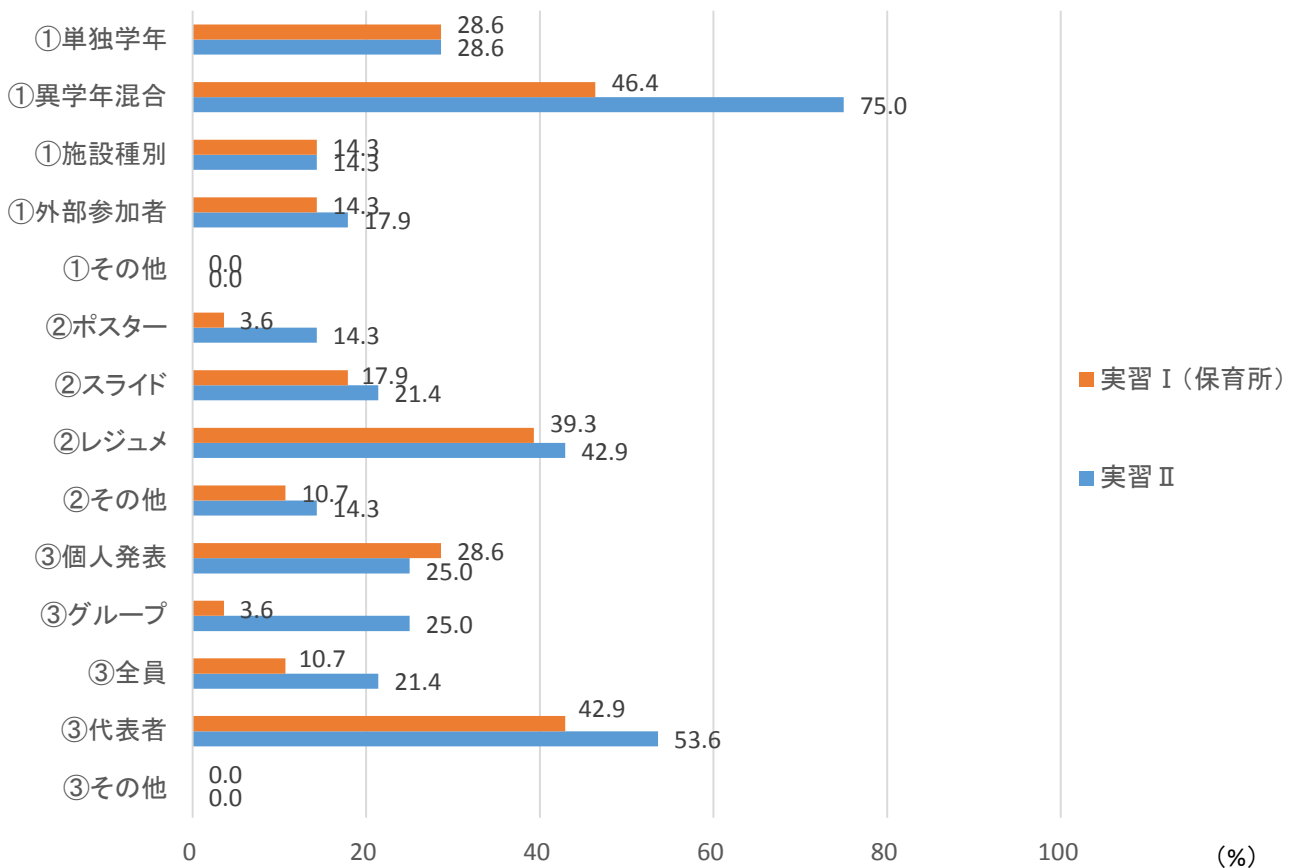


図1-4-2 イベント型実習報告会の各内容実施割合

(4) -3 記録介在型指導の実施回数と実施内容

記録介在型指導を実施していたのは、31校（86.1%）であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、2回（12.9%）1回（6.5%）、3回（3.2%）の順に多く、保育実習指導Ⅱでは2回（16.1%）、1回（9.7%）、3回（3.2%）の順に多かった。

記録介在型指導を実施している養成校について、その内容である「レポート作成」、「記録整理」、「チェックシート」、「実習報告会資料作成」、「お礼状」、「その他」の実施割合を算出した（図1-4-3）。レポート作成については、保育実習指導Ⅰ（54.8%）、保育実習Ⅱ（54.8%）ともに5割程度、チェックシートの使用についても保育実習指導Ⅰ（58.1%）と保育実習指導Ⅱ（58.1%）ともに6割程度、記録整理についても保育実習指導Ⅰ（32.3%）と保育実習指導Ⅱ（35.5%）ともに3割程度実施されていた。また、実習報告会資料作成については保育実習指導Ⅰ（25.8%）よりも保育実習指導Ⅱ（41.9%）で多く実施されてい

た。レポート作成とお礼状については事後指導の中でも比較的高い割合であり、そして、保育実習指導Ⅰでのチェックシートの使用、保育実習指導Ⅲでの記録整理は、それぞれ特徴的な内容であろう。

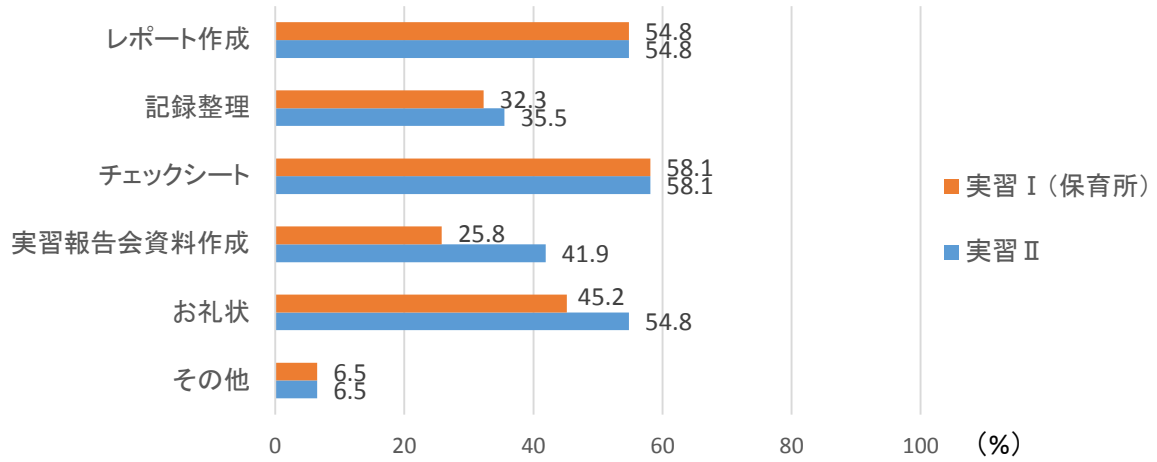


図1-4-3 記録介在型指導の各内容実施割合

(4) -4 グループワーク型指導の実施回数と実施内容

グループワーク型指導を実施していたのは、18校（50.0%）であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、2回（21.4%）、3回（14.3%）、4回（7.1%）の順に多く、保育実習指導Ⅱでは1回・3回（それぞれ33.3%）、2回（16.7%）の順に多かった。

グループワーク型指導を実施している養成校について、その内容である「ディスカッション」、「ワールド・カフェ」、「OST」、「PBL」、「カンファレンス」、「その他」の実施割合を算出した（図1-4-4）。ディスカッションは保育実習指導Ⅰ（61.1%）より保育実習指導Ⅱ（77.8%）の方が、ワールド・カフェは保育実習指導Ⅰ（11.1%）より保育実習指導Ⅱ（16.7%）の方が、OSTは保育実習指導Ⅰ（11.1%）よりも保育実習指導Ⅱ（16.7%）の方が、PBLは保育実習指導Ⅰ（11.1%）より保育実習指導Ⅱ（16.7%）の方が、カンファレンスについても保育実習指導Ⅰ（38.9%）より保育実習指導Ⅲ（44.4%）の方が高い実施率であった。

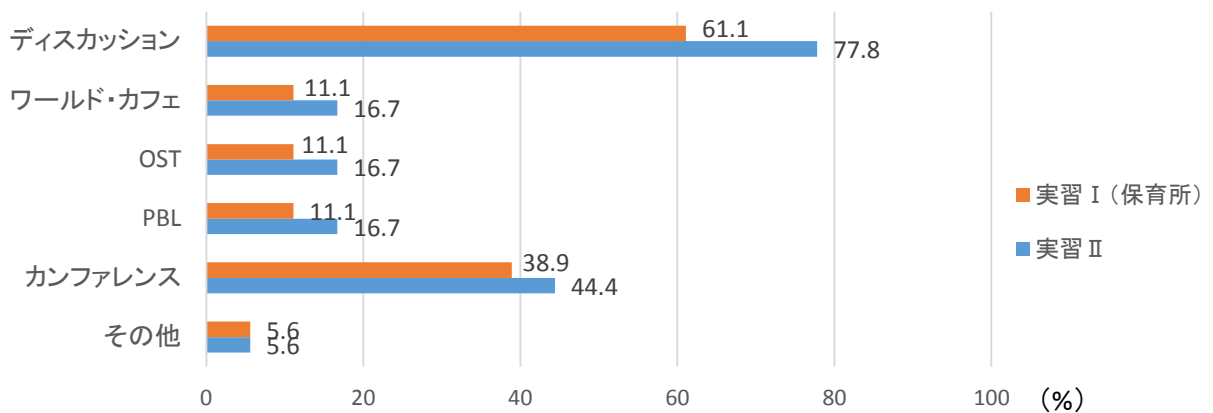


図1-4-4 グループワーク型指導の各内容実施割合

(4) -5 個別面談型指導の実施回数と実施内容

個別面談型指導を実施していたのは、32校（88.9%）であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回（28.1%）、4回（15.6%）、2回及び3回（9.4%）の順に多く、保育実習指導Ⅱでは1回（28.1%）、2回・4回（それぞれ12.5%）の順に多かった。

個別面談型指導を実施している養成校について、面接担当者が「実習担当者」、「訪問指導担当者」、「その他の教員」である割合を算出した（図1-4-5）。実習担当者が面談を実施する割合は保育実習指導Ⅰ（46.9%）より保育実習指導Ⅲ（50.0%）の方がやや高く、その他教員による面談実施割合も保育実習指導Ⅰ（25.0%）より保育実習指導Ⅱ（34.4%）の方が多く、訪問指導担当者による面談の実施割合は保育実習指導Ⅰ（34.4%）より保育実習指導Ⅲ（28.1%）の方が低かった。

なお、その他の担当教員とされていた中には、ゼミ担当者、クラス担当者、チューターなど、学生をよく知る教員も含まれていた。

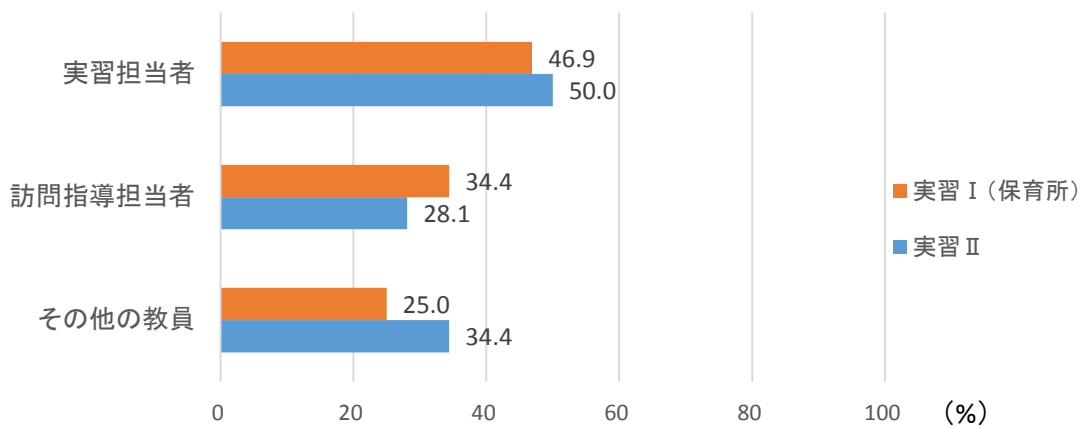


図1-4-5 個別面談型指導の各内容実施割合

(4) -6 外部講師参加型指導の実施回数と実施内容

外部講師参加型指導を実施していたのは、7校（19.4%）であった。実施回数を多かった順に挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回（42.9%）、2回（14.3%）の順に多く、保育実習指導Ⅱでは1回（71.4%）、2回・3回（それぞれ14.3%）の順に多かった。

外部講師を招いての事後指導を実施している養成校について、講師として講義をしている人物が「施設長」、「現任保育者」、「その他」である割合を算出した（図1-4-6）。施設長による講義が、保育実習Ⅰ（71.4%）、保育実習指導Ⅱ（100.0%）ともに多かった。保育実習指導Ⅱにおける外部講師参加型の講義において、施設長が必ず講義されていることは特徴的だろう。実施される現任保育者による講義は、保育実習指導Ⅰ（14.3%）より保育実習指導Ⅱ（42.9%）の方が多かった。

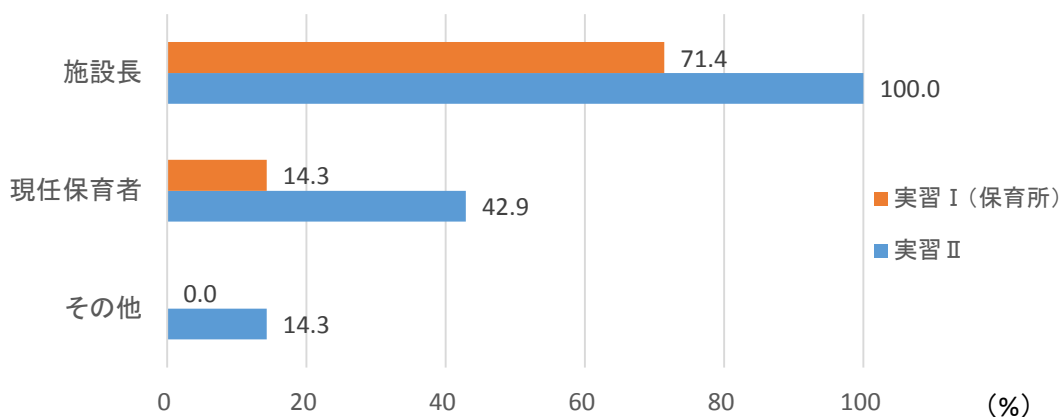


図1-4-6 外部講師参加型指導の各内容実施割合

(4) -7 キャリア支援型指導の実施回数と実施内容

キャリア支援型指導を実施していたのは、16校（44.4%）であった。実施回数を多かった順に挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回（31.3%）、7回（6.3%）の順に多く、保育実習指導Ⅱでは1回（50.0%）、2回（12.5%）、3回（6.3%）の順に多かった。

キャリア支援型指導を実施していた養成校について、その内容である「適性」、「保育士登録」、「その他」である割合を算出した（図1-4-7）。学生が自らの適性を考えることについては、保育実習指導Ⅰ（18.8%）・保育実習指導Ⅲ（18.8%）ともに2割程度の実施であった。保育士登録については、保育実習指導Ⅰ（37.5%）より保育実習指導Ⅲ（87.5%）の方が多かった。その他については、保育実習指導Ⅰ（6.3%）よりも、保育実習指導Ⅲ（18.8%）の方が多かった。その他に含まれる実施内容は、保育士登録や自己分析についての指導、履歴書の書き方指導、就職希望調査等であった。

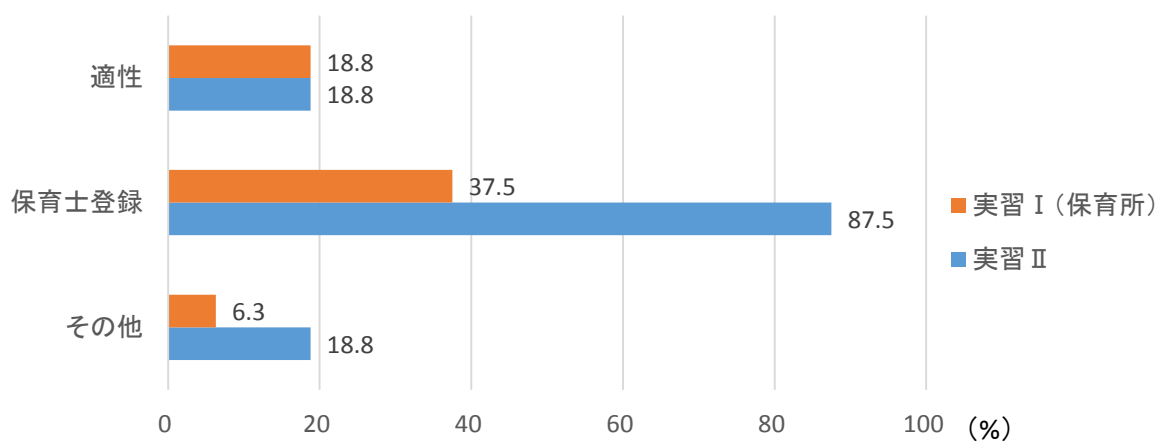


図1-4-7 キャリア支援型指導の各内容実施割合

(5) 実習評価票をどのように学生に見せているか

実習評価票を学生にどのように見せているのか、あるいは見せていないのかについての割合を算出した(図1-5)。学生に提示する場合、その方法として多かったのは、保育実習 I (33.3%)、保育実習 II (38.9%) ともに一人ひとり個別に見せるものであった。また、実習評価票を学生に見せていない養成校は、保育実習 I (61.1%)、保育実習 II (58.3%) と 5 割以上であった。

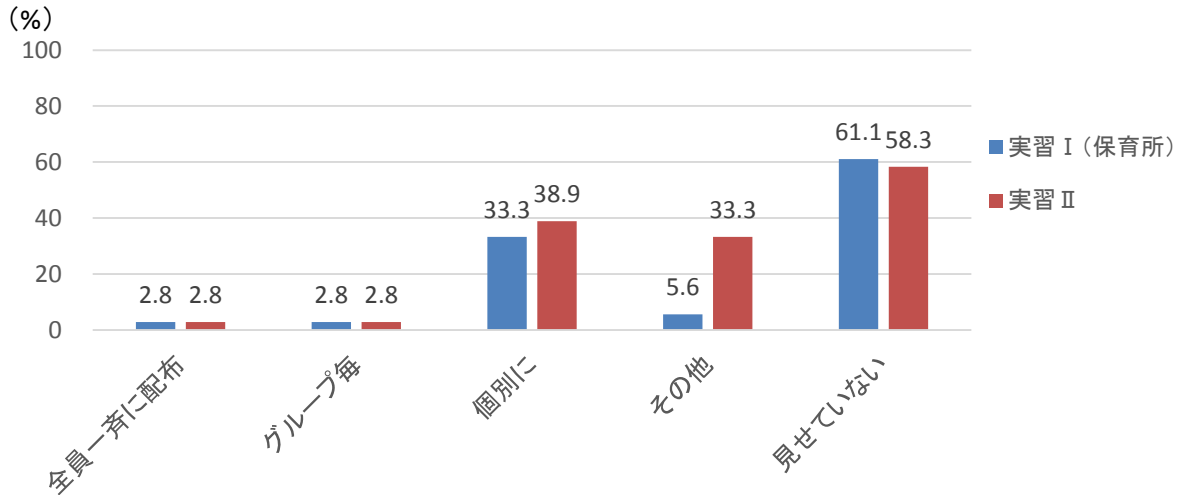


図1-5 実習評価票をどのように学生に見せているか

(6) 保育実習指導の成績は誰がつけているか (図1-6)

実習指導担当者が成績をつけている割合が保育実習指導 I (61.1%)・保育実習 II (61.1%) ともに高く、次いで実習担当者が成績をつけている割合が保育実習指導 I (27.8%)・保育実習指導 II (25.0%) であった。

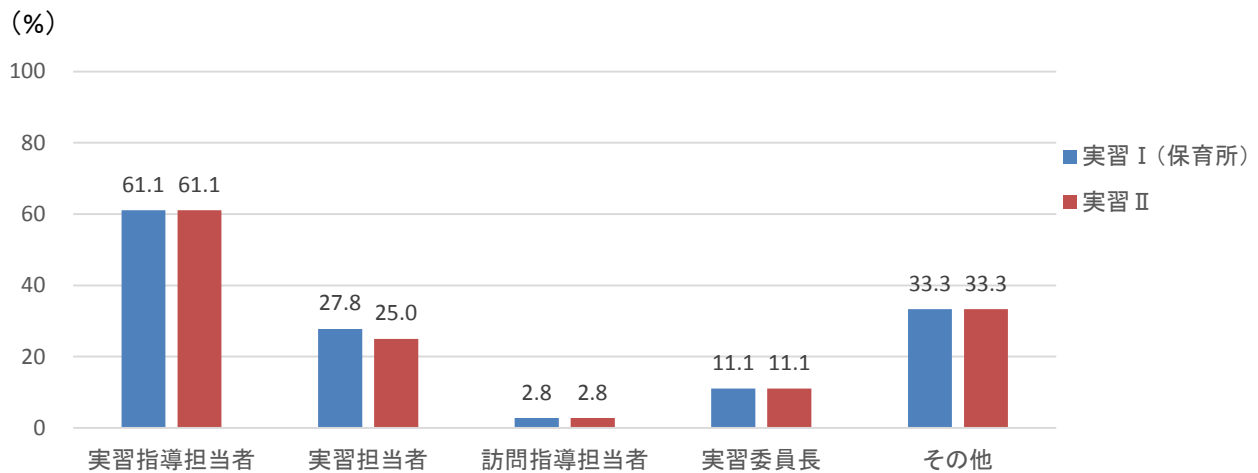


図1-6 保育実習の成績は誰がつけているか

(7) 実習先の成績評価は、どの程度加味するか (図 1-7-1、図 1-7-2)

「ある程度反映」するという回答が保育実習Ⅰ (69%)、保育実習Ⅱ (69%) とともに多かった。

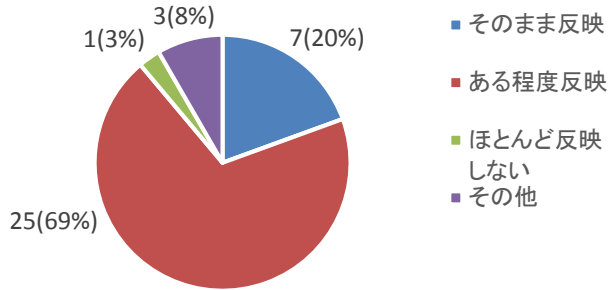


図1-7-1 実習先成績評価は保育実習Ⅰの成績にどの程度加味するか

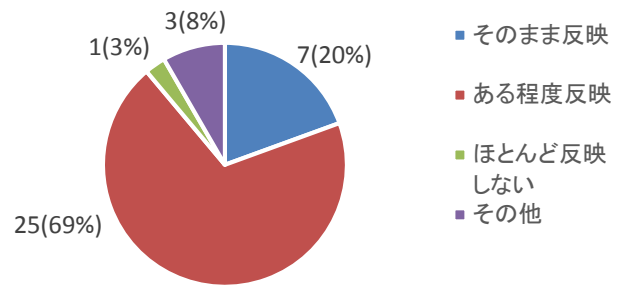


図1-7-2 実習先成績評価は保育実習Ⅱの成績にどの程度加味するか

以上